



第11号
平成24年3月6日
発行
熊本市北区
高平 2-20-35
浄国寺
編集者
中山 義昭

平成二十五年 春季彼岸会法要開催

三月になり、気温が一定せず、体調を崩されている方もおおいのではないかと心配しております。今年も、下記の日程で恒例の春の彼岸の先祖供養の法要を営みます。
日時 三月二十四日(日)
午前十一時



毎年、この季節の通信にお彼岸の由来について書いてきました。今回も、その事に触れたいと思います。仏教では、我々の生きていくこの世界を娑婆と言います。これは、古代インド語の音訳で、意味は忍土すなわち苦しみに耐え忍ぶ世界という意味です。つまり生きて

いる世界は『苦』であると言うのが出発点になっています。苦しい世界に生きていたいと思う人はありません。それなのに何故、お釈迦様は、人生は『苦』とされたのでしょうか？。それは、私達凡夫衆生(普通の凡人)この世界の在り方を理屈で分かっていても、心から受け入れていないからだと言われてます。老、病、死、これは誰も避けることも逃げることもできません。その理屈は分かっている、私には老いたくないし、年もとりたくない、死ぬのは絶対に嫌だ」と考え、そうならないようにと時には神様に祈ったりもします。でも、これは逃れる術のない真理に対して、そう

浄国寺春季彼岸会

日時 平成二十五年三月二十四日(日)

午前十一時より

彼岸会檀信徒総供養

法話 熊本県菊池市玉祥寺

玉祥寺 住職

河野 勝道 師

簡単な弁当を用意しております。出欠及び人数を同封の葉書で返信下さい

ありたくないという執着が起り、それが苦しみになっているのだと言うのが、お釈迦様が「人生は苦である」と言われた意味だと私は思います。そして、その真理を全身全霊で受け止め、納得し、体得した状態を解脱と呼び、その世界が涅槃であり、彼岸(苦しみのない向こう岸)だと考えられます。ここまで言う、仏教は何か「その域」にまで達しないと救いはないし、「その域」に達する為の特別な修行が必要なものか(人によっては、その方法が坐禅だと思っ

ている方もいらっしゃると思いますが)と受け止める人

もいるでしょう。私は僧侶ですし、衣や袈裟を付けていますが、私自身が「その域」に達した人間かというところまではありません。いつも悩み、苦しみ、もがいている凡夫衆生の一人です。ただ、お釈迦様の教えは、こういうもので、こういう風に日常生活で考えていくなら、もっと「生きていく」ことに積極的に向き合えるのではないかと考え、学び、それを皆様に伝えることをメインにしていることを許された存在であるだけです。考え、試みて下さい。「人生は『苦』である」と言われ

その人の人生は、誰かが、望み通りの人生を与えてくれる訳ではないのです。『苦』の原因は執着とされ、それが煩惱を生み、さらに『苦』を生み出すという連鎖反応で私達は、苦しんでいます。ただ、その『苦』の連鎖を止める方法が、仏教には沢山あります。亡くなった方の供養をきちんと務めるのは、僧侶として大変重要な役割です。でも、お寺は生きていく人の為のものであり、もっと多くの人に寺の門戸を開きたい、敷居を低くしたいと私が言い続けるのは、こう言う理由です。葬儀にあたって戒名を授かります(本来は、生きていく時に戒名は貰うものですが)。戒名を貰うと言う事は、仏弟子となることです。人間の肉体は「老、病、死」の様々な『苦』を生み出します。その肉体から解放



されることとは、「苦」から解放されることです。引導を渡されて、仏

様に導かれて涅槃に向かう旅立ちが葬儀であり、仏として涅槃で見守っている先祖へ、きちんと生きていくことで応えるのが供養です。もうすぐ春の彼岸法要です。桜の花も咲き始めます。それぞれが、自分の人生をしっかりと見つめ直し、より良く生きようと思いを強めること。これが何よりも、ご先祖様への供養じゃないでしょうか？

晋山式

私は、曹洞宗管長から辞令を戴き、浄国寺住職の任を拝命しています。辞令は、平成十年七月に板橋興宗禅師猊下(現 御誕生寺住職)から交付されました。先代住職は、東堂という職に退き、名義上は私が住職となり、法的にも法人の代表となりました。しかし、本来曹洞宗寺院の住職は、その

寺を護持している檀信徒の皆様にごかれて、寺に赴き寺の発展と仏教興隆に尽力するということ表示を行い、自分の力量を示さなければなりません。この儀式を山に晋むと書いて晋山式(しんざんしき)と言います。この式を通じて、檀信徒や近隣の方丈様方にも、住持として認めて頂いて、ようやく住職として務めが始まると言って良いと思います。私は、十年以上名義的には住職ですが、まだ晋山式は行っていません。この儀式の時には、修行者の長老の法戦式を行う事になっていきます。この度、岩戸の靈巖洞 五百羅漢の雲岩寺の徒弟 馬場英俊上座が、その役を務める事になりましたので、晴れて晋山式を執り行うことに致しました。晋山式は、曹洞宗僧侶にとつて通らなければならぬ三大儀式の締め括りとして最も重要な式です。檀信徒の皆様にも、ご理解やご協力を御願いしなければなりません。予定は、今年の秋に考えています。詳細は、又連絡致しますが、まずはお知らせしておきます。どうぞ、宜しく御願い致します。

墓地、納骨堂管理費

(加入者の方々へ)

墓地や納骨堂の維持には支出や人手が必要になります。これまでは、年間の維持管理費をご持参頂いていましたが、高齢でお詣りも叶わないケースや、ついっ忘れちゃう場合等も起こるようになりました。振込用紙を同封していただきますので、ご利用下さい。尚、これまで通り、ご持参頂いても構いません。金額は、墓地は一坪あたり四千元、納骨堂は一律五千元になっていきます(年額)。

観音大祭

皆様 ご存じのように当山には松本喜三郎作の活人形の傑作「谷汲観音像」が祀つてあります。近年、テレビ等でも取り上げられ、参詣者も増えました。毎年四月二十九日には、喜三郎頭彰会と共催で、喜三郎翁の命日の墓前祭供養と観音供養、これは私の勝手な解釈ですが、喜三郎翁は興行師としても一流で、何より人を驚かせ楽しませることが

ホームページ開設

好きだったのだからと勝手に考え、何かイベントを行ってききました。「いま、心にZEN」と言う仏教シンポジウムは秋の晋山式に併せて開催する予定です。四月の観音大祭では「楽しい」を基本に『昭和の音楽を振り返る』というイベントを北海道で行っている歌旅座という団体と交渉中です。是非、足をお運び下さい。

インターネットの普及は、若者のみならず幅広く広がっています。又、活人形の再評価で参詣者も増え、近年、坐禅会の参加希望者も増えています。その中でも、インターネットで調べたという方が多いようです。しかしネット上の情報が古かったり、事実と異なるケースも多く見られます。私自身、幼稚園団体の仕事で不在がちな為、電話による問い合わせへの応対も支障が出がちです。そこで、浄国寺のホームページを開設しました。



「曹洞宗 本覚山 浄国寺」で検索をかければ出ると思っています。浄国寺の由来や、行事予定、この通信も掲載されています。一度、ご覧戴ければ幸いです。

身辺雑記

「現代型うつ病」という言葉があります。特に職場の環境や人間関係、仕事の状態等が引き金となり、いわゆる「うつ状態」になり出社拒否や仕事に問題が出る人が増えているそうです。従来型の鬱とは、発症の形や病状が違うので「現代型」と呼ばれています。この種の病は、脳内物質の分泌と関係が深いようで、それを調整する薬の投与が治療の主のようです。一方で精神科臨床医の中には西欧式の薬物療法に加えて、東洋型、特に仏教の発想をもとに人間の心の動きを考へ、それをコントロールするという研究もあるようです。中でも坐禅(特に呼吸法)を取り入れた療法も実際行われています。坐禅に参加される方にも、そういう方もおられます。医学的な事は分かりませんが、私達は自分の「心や思い」と「理性と肉体」の関係性について忘れがちになるようです。生活の中にキリスト教的なバックボーンがない我々日本人だからこそ、物質本位になれば、歯止めが効かなくなりそうな恐怖を感じても昔と同じようにはなりません。更に貧富の較差は広がるでしょう。何を大切に感じるか?その中で仏教の智慧を、どう生かしていくのか、問われている気がします。